

資料論文

保育者養成校の学生のピアノ演奏における不安感について

— 1 年次前期開講科目の中間アンケートと終了時アンケートとの比較 —

Anxiety in Piano Performance Among Students at an Early Childhood Educator Training College: A Comparison Between Midterm and Final Surveys in First-Semester Courses

越智光輝

国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

本研究では、1 年次前期開講科目である「保育のピアノ基礎 I」について、1 年次前期中間時および 1 年次前期終了時での、ピアノ演奏における学生の不安感の状況について明らかにすることを目的にアンケート調査を行った。終了時アンケートで「軽減した」もしくは「やや軽減した」と回答した割合は 77.6%であった。中間アンケートと終了時アンケートの比較で、「軽減した」もしくは「やや軽減した」の回答の割合は、終了時アンケートで高くなる傾向が、「あまり軽減していない」の回答の割合は、終了時アンケートで減少する傾向が認められた。中間アンケートで不安感の軽減の度合いの高い回答の対象者ほど、終了時アンケートでも不安感の軽減の度合いの高い回答となる割合が高まる傾向にあることが明らかとなっており、中間アンケートの「軽減した」もしくは「やや軽減した」と回答する割合を高められる方策を実践することができれば、終了時の「軽減した」もしくは「やや軽減した」と回答する割合が高まることが期待できる。今後、中間アンケートや終了時アンケートの回答が、どのような要因により決定されたかについて明らかにする必要があるとともに、入学前のピアノ経験を踏まえた方策の検討が求められる。

キーワード:ピアノ、演奏、不安感、保育者養成

1. はじめに

保育者養成校である国際学院埼玉短期大学（以後、本学）では、表現の領域における音楽表現活動に関連した科目として、1 年次前期に「保育のピアノ基礎 I」を開講している（図 1・2）¹⁾。幼稚園教諭 2 種免許状取得のための必修科目の 1 つである「保育のピアノ基礎 I」では、複数教員による指導のもと、子どもの歌の弾き歌いに加え、全訳バイエルやブルクミュラー 25 練習曲、ソナチネアルバム等に掲載されているピアノ曲を習得することを目指して、学生は授業に取り組んでいる。隔週の授業内で弾き歌いを発表し、14 回目の授業内ではピアノ曲の演奏の成果により成績を評価している。

保育者養成校に入学する学生の中には、ピアノ未経験もしくは経験はしているが初心者とされる学生が一定数在籍している（宮坂・小川 2020、志茂・阿部・河野 2020、吉岡 2020）との報告がある。本学においても同様の状況であり、入学後のピアノ学修における不安感を軽減させる取り組みとして、入学予定者を対象とし、ピアノ演奏に必要な知識や理論を

学ぶための講義や、入学後の授業で弾き歌いの発表を行う課題曲を個別レッスンで指導する「プレカレッジ」を実施している。入学後間もない時期での学びの躓きが、その後の学修に悪影響をおよぼすことが明らかになっている（上杉 2016）ことから、「保育のピアノ基礎Ⅰ」をはじめとする入学後のピアノ関連科目だけではなく、入学前に実施されているプレカレッジにおける講義や個別レッスンについても、筆者は授業改善に継続的に取り組んできた（越智 2017・2018・2019・2020・2021）。しかし、これまでピアノ演奏における学生の不安感については明らかになっていない。

シラバスの情報	
ディプロマポリシー	
○ 1-1 教養 ◎ 2-2 知識・技能 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力	
授業の概要（7行まで）	テキスト（3行まで）
幼稚園、保育所、認定こども園といった保育の現場での、ピアノを用いた音楽を伴う表現活動を実践できる人材となるために、個人レッスンによる指導を中心に、ピアノ曲（バイエル、ブルグミュラー、ソナチネ、ソナタ）と童謡（子どもの歌）の弾き歌いの発表について、隔週で交互に取り組む。	越智光輝 「子どもとうたおう ピアノでド・レ・ミ！ レベルにあわせて楽しく弾ける50曲」 三恵社
	参考図書（6行まで） （1）進捗状況に応じて次の①～④より各自で用意する。 課題曲は、レッスンカードを参照すること。 ①全訳バイエル 全音楽譜出版社 ②ブルグミュラー25練習曲 全音楽譜出版社 ③ソナチネアルバムⅠ巻 全音楽譜出版社 （2）入学前教育及び授業内で配布されたプリント
授業の到達目標（7行まで）	授業時間外学習（6行まで）
保育の現場で求められる鍵盤楽器演奏能力における基礎技能を身につけることで、 ・合格基準にもとづいて童謡の弾き歌いを6曲以上習得することができる。 ・参考図書①～④より指定された1曲のピアノ曲を、決められた小節まで演奏できる。	授業（個人レッスン）は練習の場ではなく、事前・事後学習で見つけた課題を解決する場と捉え、教員から提示された次回の授業までの課題曲を、自己学習しておく。（本授業では15時間の時間外学習が必要です。）
成績評価の方法（5行まで）	課題に対するフィードバック等（3行まで）
ピアノ実技成果発表45%、童謡の弾き歌いの発表の合格数55%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。	隔週で実施する童謡の弾き歌い発表及び14週目の授業でのピアノ実技成果発表について、実施後、授業内で改善点に関するフィードバックをバーバルコミュニケーションにて行う。

図1 令和7年度 保育のピアノ基礎Ⅰシラバス（抜粋）

演奏における不安は「本番前」「本番中」「本番後」の3ステージに分類されることが報告されている（坂内・嘉瀬・木村・大石 2017）。これら3つのステージの中でも演奏中や特に本番前、実際の演奏場面に先立って生じる不安は演奏後の心理状態に大きな影響を及ぼすことが明らかとなっている。

そこで、本研究では、1年次前期開講科目である「保育のピアノ基礎Ⅰ」について、1年次前期中間時（以後、中間）および1年次前期終了時（以後、終了時）における、ピアノ演奏における学生の不安感の状況について明らかにすることを目的とし、アンケート調査を行った。本研究の目的が明らかになることで、今後のピアノ学修における学生の不安感の軽減に焦点を当てた授業改善のための方策を検討する際の一助となることが期待できる。

授業計画		
週	テーマ (2行まで)	学習内容 (2行まで)
1	学修の進め方について	授業内容と方法の説明、受講グループ及びピアノ曲の決定 【時間外学習】次回授業にむけての練習 (1時間)
2	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:1週目に決定したピアノ曲及び3週目で発表する童謡、3・4班:1週目に決定した童謡の弾き歌い発表【時間外学習】次回にむけての練習 (1時間)
3	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:2週目に組み組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:1週目に決定したピアノ曲及び4週目で発表する童謡【時間外学習】次回にむけての練習 (1時間)
4	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:2週目に決定したピアノ曲及び5週目で発表する童謡、3・4班:3週目に組み組んだ童謡の弾き歌い発表【時間外学習】次回にむけての練習 (1時間)
5	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:4週目に組み組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:3週目に提示されたピアノ曲及び6週目で発表する童謡【時間外学習】次回にむけての練習 (1時間)
6	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:4週目に提示されたピアノ曲、7週目で発表する童謡、3・4班:5週目に組み組んだ童謡の弾き歌い発表【時間外学習】次回にむけての練習 (1時間)
7	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:6週目に組み組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:5週目に提示されたピアノ曲、8週目で発表する童謡【時間外学習】次回にむけての練習 (1時間)
8	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:6週目に提示されたピアノ曲、9週目で発表する童謡、3・4班:7週目に組み組んだ童謡の弾き歌い発表【時間外学習】次回にむけての練習 (1時間)
9	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:8週目に組み組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:7週目に提示されたピアノ曲、10週目で発表する童謡【時間外学習】次回にむけての練習 (1時間)
10	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:8週目に提示されたピアノ曲、11週目で発表する童謡、3・4班:9週目に組み組んだ童謡の弾き歌い発表【時間外学習】次回にむけての練習 (1時間)
11	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:10週目に組み組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:9週目に提示されたピアノ曲、12週目で発表する童謡【時間外学習】次回にむけての練習 (1時間)
12	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:10週目に提示されたピアノ曲、13週目で発表する童謡、3・4班:11週目に組み組んだ童謡の弾き歌い発表【時間外学習】次回にむけての練習 (1時間)
13	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:12週目に組み組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:11週目に提示されたピアノ曲、15週目で発表する童謡【時間外学習】次回にむけての練習 (1時間)
14	ピアノ実技成果発表	ピアノ曲の実技演奏 (ノーカット、リピートなし) 及び演奏の振り返り 【時間外学習】次回にむけての練習 (1時間)
15	童謡伴奏の習得、1年次後期における学び	童謡の弾き歌い発表、保育のピアノ基礎Ⅱでの学修計画 【時間外学習】発表にむけての練習 (1時間)

図2 令和7年度 保育のピアノ基礎Iシラバス (抜粋・続き)

2. 方法

2-1 対象者

本学幼児保育学科の令和7年度1年次の開講科目である「保育のピアノ基礎Ⅰ」を履修した学生61名を対象とした。なお、対象者は当該科目の初回授業時に、授業の振り返りとして、目標とする評価とその内訳 (子どもの歌の弾き歌い、ピアノ曲それぞれの点数)、目標を達成するために受けたアドバイスの内容、目標とする評価に到達するために取り組む内容、これらの項目への回答を本学ポートフォリオ²⁾を用いて行っている。

2-2 調査時期および調査方法

2-2-1 中間アンケート

授業内での3度目の弾き歌いの発表および発表の評価 (合格、不合格) のフィードバックが完了した後 (令和7年5月20日:学籍番号後半、令和7年5月27日:学籍番号前半) に、「セルフ型アンケートツール『Questant』³⁾」を用いて実施した。

2-2-2 終了時アンケート

令和7年7月22日 (対象:履修学生全員、授業回数:15回目) に、本学ポートフォリ

オを用いて実施した。

2-3 調査内容および検討方法

2-3-1 中間アンケート

中間アンケートの内容を表1に示した。学籍番号、氏名、担当教員の説明の分かりやすさ（わかりやすい、ややわかりやすい、ややわかりにくい、わかりにくい、より1つ選択）、改善を希望すること（自由記述）、入学後のピアノ演奏の不安感（軽減した、やや軽減した、あまり軽減していない、軽減していない、より1つ選択）、授業の満足度（高い、やや高い、やや低い、低い、より1つ選択）、論文作成等への活用への同意（同意する、同意しない、より1つ選択）、これらの質問項目への回答を依頼した。

表1 中間アンケートの内容

質問内容	回答形式
Q1 以下の項目を入力してください。	学籍番号、氏名を入力
Q2 ピアノ個室の授業で、担当教員の説明は分かりやすいですか	わかりやすい、ややわかりやすい、ややわかりにくい、わかりにくい、より1つ選択
Q3 ピアノ個室の授業で、改善してほしいことがあったら記述してください。無ければ「特になし」と入力してください。	自由記述
Q4 ML教室・音楽室の授業で、担当教員の説明は分かりやすいですか	わかりやすい、ややわかりやすい、ややわかりにくい、わかりにくい、より1つ選択
Q5 ML教室・音楽室の授業で、改善してほしいことがあったら記述してください。無ければ「特になし」と入力してください。	自由記述
Q6 入学した後、ピアノの不安は減少しましたか	軽減した、やや軽減した、あまり軽減していない、軽減していない、より1つ選択
Q7 この授業の満足度は高いですか	高い、やや高い、やや低い、低い、より1つ選択
Q8 今回のアンケートの結果を論文作成等に活用しても構いませんか。なお、個人名や学籍番号等が公表されることはありません。また、調査への同意は強制ではありません。	同意する、同意しない、より1つ選択

2-3-2 終了時アンケート

終了時アンケートの内容を表2に示した。授業1回目の振り返りの際に設定した目標とする評価の達成について（達成できた、達成できなかった、より1つ選択）、目標達成の可否の理由（自由記述）、授業の満足度（高い、やや高い、あまり高くない、高くない、より1つ選択）、授業の満足度の回答結果の理由（自由記述）、1年の前期を終えるにあたってのピアノ演奏の不安感（軽減した、やや軽減した、あまり軽減していない、軽減していない、より1つ選択）、論文作成等への活用の同意（同意する、同意しない、より1つ選択）、これらの質問項目への回答を依頼した。

表2 終了時アンケートの内容

質問内容	回答形式
質問1. 目標とする評価（点数）を達成出来ましたか？以下の中から1つ選んで下さい。	達成できた、達成できなかった、より1つ選択
質問2. 目標を達成できた、もしくは、達成できなかった理由について、あなたの考えを書いてください。	自由記述
質問3. この授業をうけた満足度について、以下の中から1つ選んで下さい。	高い、やや高い、あまり高くない、高くない、より1つ選択
質問4. 質問3の理由を書いて下さい。	自由記述
質問5. 1年の前期を終えるにあたり、ピアノに対する不安は軽減しましたか？以下の中から1つ選んで下さい。	軽減した、やや軽減した、あまり軽減していない、軽減していない、より1つ選択
質問6. 授業内でのアンケートや振り返り課題の記入内容について、授業改善を目的とする論文等に活用しても構いませんか？なお、活用への同意は強制ではなく、活用された場合でも個人名等が公表されることはありません。	同意する、同意しない、より1つ選択

2-3-3 検討方法

中間アンケートの、入学後のピアノ演奏の不安感（軽減した、やや軽減した、あまり軽減していない、軽減していない、より1つ選択）と、終了時アンケートの、1年の前期を終えるにあたってのピアノ演奏の不安感（軽減した、やや軽減した、あまり軽減していない、軽減していない、より1つ選択）の回答について、検討を行った。

2-4 倫理的配慮

口頭及び文章にて、「①研究内容および実施計画」、「②調査によって収集したデータを論文等で活用する。」、「③調査への同意は強制ではない。」、「④同意をしないことで不利益を

被ることはない。」、「⑤氏名や学籍番号等個人が特定される情報について公表されない。」、以上5点について説明を行ったうえで、対象者の意志を確認する項目（同意する、同意しない、から1つ選択）を設け同意を得た。

また、「ピアノ演奏における不安感に関するアンケート調査」の課題名にて、本学研究倫理審査委員会の承認を得た。

3. 結果

3-1 回答率

中間アンケートの回答は57名（回答率93.4%）、終了時アンケートの回答は51名（回答率83.6%）であった。中間アンケートおよび終了時アンケートの両方に回答し、かつ、それぞれのアンケートにおいて、論文作成等への活用について同意を得た49名について、検討を行った。

3-2 中間アンケートおよび終了時アンケートの回答

中間アンケートの回答は、軽減した15名（30.6%）、やや軽減した20名（40.8%）、あまり軽減していない11名（22.4%）、軽減していない3名（6.1%）で、終了時アンケートでのピアノ演奏における不安感についての回答は、軽減した16名（32.7%）、やや軽減した22名（44.9%）、あまり軽減していない8名（16.3%）、軽減していない3名（6.1%）であった（表3）。

表3 中間および終了時における回答

項目	中間 人数 (%)	終了時 人数 (%)
軽減した	15 (30.6)	16 (32.7)
やや軽減した	20 (40.8)	22 (44.9)
あまり軽減していない	11 (22.4)	8 (16.3)
軽減していない	3 (6.1)	3 (6.1)
中間、終了時いずれも n=49		

中間アンケートと終了時アンケートとの不安感の回答の割合を比較したところ、「軽減した」および「やや軽減した」は終了時アンケートで増加する傾向が認められた。「あまり軽減していない」は終了時アンケートで減少する傾向が認められた。「軽減していない」は変化が認められなかった（図3）。

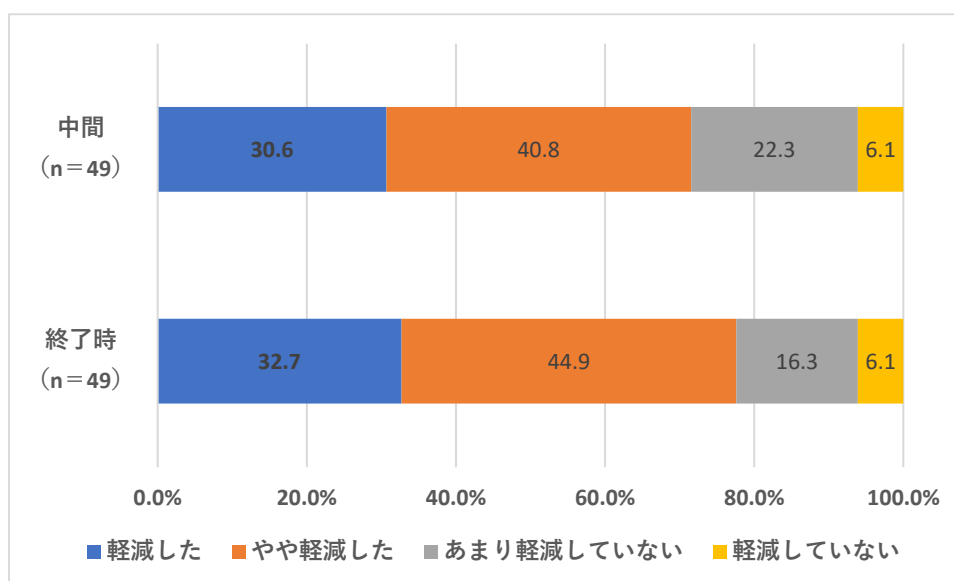


図3 中間および終了時の回答

3-3 項目ごとの推移

中間アンケートの回答（軽減した、やや軽減した、あまり軽減していない、軽減していない）ごとにおける、終了時アンケートの不安感の回答の内訳について表4・図4に示した。

中間アンケートで「軽減した」と回答した15名の終了時アンケートの回答は、軽減した10名（66.7%）、やや軽減した4名（26.7%）、あまり軽減していない0名（0.0%）、軽減していない1名（6.7%）であった。

中間アンケートで「やや軽減した」と回答した20名の終了時アンケートの回答は、軽減した6名（30.0%）、やや軽減した11名（55.0%）、あまり軽減していない3名（15.0%）、軽減していない0名（0.0%）であった。

中間アンケートで「あまり軽減していない」と回答した11名の終了時アンケートの回答は、軽減した0名（0.0%）、やや軽減した6名（54.4%）、あまり軽減していない4名（36.4%）、軽減していない1名（9.1%）であった。

中間アンケートで「軽減していない」と回答した3名の終了時アンケートの回答は、軽減した0名（0.0%）、やや軽減した1名（33.3%）、あまり軽減していない1名（33.3%）、軽減していない1名（33.3%）であった。

表 4 中間の回答ごとの終了時の回答

中間		終了時			
項目	人数 (n=49)	軽減した (%)	やや軽減した (%)	あまり軽減していない (%)	軽減していない (%)
軽減した	15	10 (66.7)	4 (26.7)	0 (0.0)	1 (6.7)
やや軽減した	20	6 (30.0)	11 (55.0)	3 (15.0)	0 (0.0)
あまり軽減していない	11	0 (0.0)	6 (54.4)	4 (36.4)	1 (9.1)
軽減していない	3	0 (0.0)	1 (33.3)	1 (33.3)	1 (33.3)

注. (%) の値は項目ごとの総計の割合

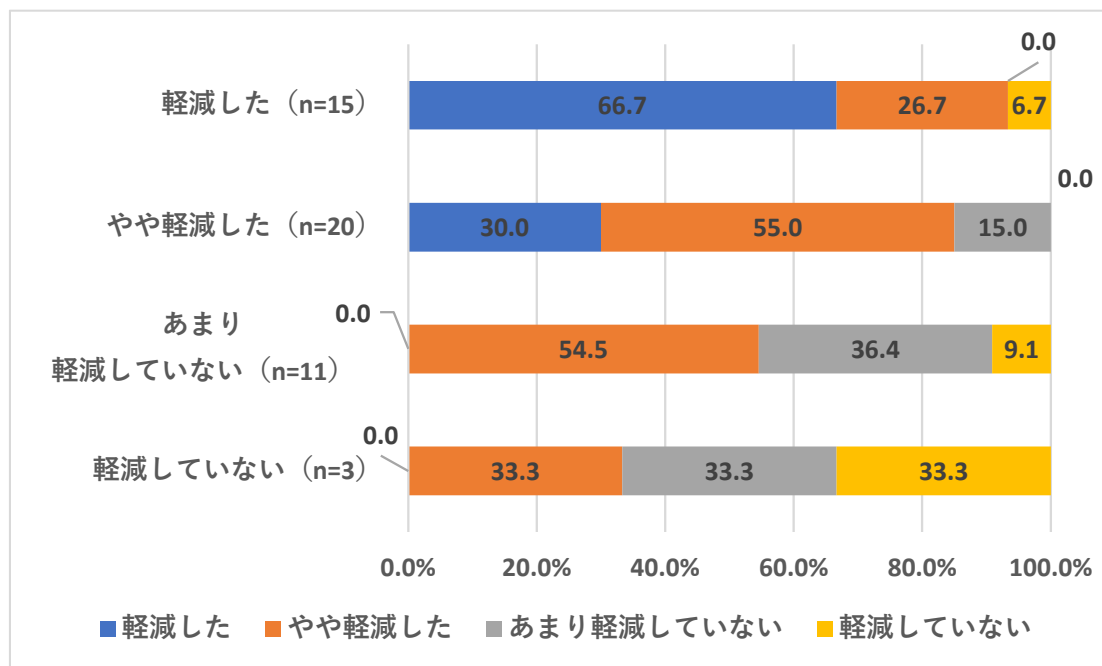


図 4 中間の回答ごとの終了時の回答

4. 考察

4-1 中間アンケートおよび終了時アンケートでの回答

終了時アンケートで「軽減した」もしくは「やや軽減した」と回答した割合は 77.6%となった。また、中間アンケートと終了時アンケートの比較で、「軽減した」もしくは「やや軽減した」の回答の割合は、終了時アンケートで高くなる傾向が認められ、「あまり軽減していない」の回答の割合は、終了時アンケートで減少する傾向が認められた。一部の対象者においては不安感の軽減が十分ではない可能性も示されてはいるものの、授業を通してピアノ演奏における不安感は軽減される傾向にあると考えられる。

中間アンケートで不安感の軽減の度合いの高い回答の対象者ほど、終了時アンケートでも不安感の軽減の度合いの高い回答となる割合が高まる傾向にあることが明らかとなった。したがって、今後、学生が入学後間もない時期でのピアノ学習に躓くことなく、中間アンケートにおいて「軽減した」もしくは「やや軽減した」と回答する割合を高められる方策を実践することができれば、終了時アンケートにおいても「軽減した」もしくは「やや軽減した」と回答する割合が高まることが期待できる。

4-2 方策を検討するための今後の課題

今後のピアノ学修における学生の不安感の軽減に焦点を当てた授業改善のための方策については、表 5 に示した色を付けた対象者 11 名 (22.4%・n=49) を中心として検討する必要があると考える。しかし、終了時アンケートにおいて「軽減していない」を選択した 3 名 (表 5・黄、橙、赤) は、中間アンケートでは 1 名ずつ異なる回答をしており、終了時アンケートの回答が同じであったとしても、そのような回答に至ったのには対象者のそれぞれで異なる背景や理由があると推測される。

また、終了時アンケートにおいて「あまり軽減していない」と回答した 8 名 (表 5・水色、青、紫) についても、中間アンケートでは 3 名が「やや軽減した」、4 名が「あまり軽減していない」、1 名が「軽減していない」と異なる回答をしている。終了時アンケートにおいて「軽減していない」と回答した 3 名のケースと同様に、終了時アンケートで「あまり軽減していない」と回答した 8 名においても、このような回答に至った経緯については、8 名それぞれの、もしくは中間アンケートの回答に応じた背景や理由が存在する可能性が考えられる。

したがって、ピアノ演奏の不安感の軽減に焦点を当てた授業改善のための方策を検討するためには、今後、中間アンケートや終了時アンケートの回答が、どのような要因により決定されたかについて明らかにする必要がある。また、中間アンケートにおいて「軽減した」もしくは「やや軽減した」と回答する割合を高められる方策を実践するにあたっては、授業開始から中間アンケートまでの入学後の間もない期間、すなわち入学前のピアノ経験が、授業での弾き歌いの発表の評価にそのまま反映されることが予想される時期であることを考慮する必要がある。そのため、対象者の入学前のピアノ経験とその経験によって習得済みの演奏スキルについて、具体的に明らかにする必要がある。

表 5 不安感軽減のための方策を検討する対象者

項目	中間 人数 (n=49)	終了時			
		軽減した (%)	やや軽減した (%)	あまり軽減していない (%)	軽減していない (%)
軽減した	15	10 (66.7)	4 (26.7)	0 (0.0)	1 (6.7)
やや軽減した	20	6 (30.0)	11 (55.0)	3 (15.0)	0 (0.0)
あまり軽減していない	11	0 (0.0)	6 (54.4)	4 (36.4)	1 (9.1)
軽減していない	3	0 (0.0)	1 (33.3)	1 (33.3)	1 (33.3)

注. (%) の値は項目ごとの総計の割合

5. おわりに

本研究の目的は、1 年次前期科目である「保育のピアノ基礎 I」を履修している学生のピアノ演奏における不安感の状況について明らかにすることであった。授業を通して、学生のピアノ演奏における不安感が軽減される傾向にあることが示唆されたが、中間アンケートで「あまり軽減しなかった」もしくは「軽減しなかった」と回答し、終了時アンケートにおいても同様の選択をしている一部の学生においては、不安感の軽減が十分ではないと考えられる。

本研究においては、ピアノ演奏における不安感を決定する要因について明らかとなっていない。また、入学前のピアノ経験を踏まえた方策の検討についても必要である。今後も、ピアノ演奏における不安感を決定する要因やこれまでのピアノ経験に関する調査、不安感の軽減が十分でない学生への指導内容の検討等、ピアノ関連科目における授業改善に、継続的に取り組んでいくべきであると考えられる。

著者の利益相反：開示すべき利益相反はない

引用文献

- 1) 国際学院埼玉短大学 「シラバスの検索」
<https://ccm.kgef.ac.jp/private/management/abu0062/search> (2025/07/29 参照)
- 2) 国際学院埼玉短期大学 「ポートフォリオ」
<https://ccm.kgef.ac.jp/private/management/pfstudy> (2025/07/29 参照)

- 3) 株式会社マクロミル 「無料セルフアンケート ASP『クエスタント』」
<https://web.questant.jp/term.html> (2025/07/29 参照)

参考文献

- 上杉恵子 (2016) 「大学成績：1年で決まる？ 卒業時と一致 東京理科大調査」
毎日新聞 <https://mainichi.jp/articles/20160603/k00/00m/040/141000c> (2025/08/01
参照)
- 宮坂まみ・小川美智子 (2020) 「保育学生のピアノの上達と指導法の関連についての
考察 ― 保育士養成課程における調査研究 ―」 環太平洋大学研究紀要 16 巻 107-115.
- 越智光輝 (2017) 「『子どもの歌』におけるピアノ伴奏の効率的な習得 ― 調性が練習時
間および難易感に与える影響 ―」 国際学院埼玉短期大学研究紀要 38 号 1-12.
- 越智光輝 (2018) 「入学前教育におけるピアノ学習の指導内容に関する分析 ― 保育者
養成校で学ぶ学生のピアノ読譜における難易感 ―」 国際学院埼玉短期大学研究紀要
40 号 21-38.
- 越智光輝 (2019) 「入学前教育『ピアノ学習の基礎①』における学習成果の検証 ― 入
学予定者の読譜における難易感の変化について ―」 国際学院埼玉短期大学研究紀要
42 号 11-27.
- 越智光輝 (2020) 「入学前教育における現状と課題 ― 入学前ピアノ学習・個人レッス
ンの受講状況及び学習成果 ―」 国際学院埼玉短期大学研究紀要 44 号 9-21.
- 越智光輝 (2021) 「音楽を伴う表現活動に関する保育現場 372 か所への調査 ― 幼稚園
39 園、保育所 61 園、幼保連携型認定こども園 16 園の回答によるピアノの演奏に関す
る課題の検討 ―」 国際学院埼玉短期大学研究紀要 46 号 1-15.
- 坂内くらら・嘉瀬貴祥・木村駿介・大石和男 (2017) 「プロのピアノ奏者における演奏
不安の発現の包括的構造に関する質的研究：心理・身体・環境要因とパフォーマンスの
経時的変化に注目して」 ストレスマネジメント研究 = Stress management research / ス
トレスマネジメント研究編集委員会編 13 (2) 75-84.
- 坂内くらら・遠藤伸太郎・大石和男 (2019) 「演奏前不安尺度 (PPAS) の作成」 音楽
知覚認知研究 25 巻 1 号 13-20.
- 志茂貴子・阿部陽子・河野有香 (2020) 「保育職に必要な表現の技術を高める指導法の考察」
秋草学園短期大学紀要 36 号 203-215.
- 吉岡三貴 (2020) 「幼稚園教諭・保育士養成課程における、ピアノ未経験者の技術習得
過程についての一考察」 江戸川大学紀要 30 541-558.